

「ココが知りたい」。国際協力に関する
いろんなトピックを分かりやすく解説します!



ODA広報

「国際協力60周年」 僕らが世界に できることを探そう!

2014年は日本が政府開発援助 (ODA) を開始して60年。より多くの方に国際協力に興味を持ってもらうための取り組みを紹介します。

まるごと一冊が国際協力!



雑誌『BRUTUS』(株式会社マガジンハウス、2014年10月15日号)では「国際協力60周年」特集。国際協力への一歩を踏み出したい方にぴったりの一冊。マガジンハウスのオンラインショップ (magazinehouseshop.jp/SHOP/BU787.html) より購入可能。

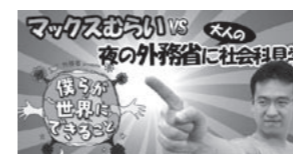
国際協力のイロハが
学べるウェブサイト



世界一分かりやすい国際協力の情報サイト「#EARTH ACTION STUDIO JAPAN」(earthactionstudiojapan.go.jp/) が開設中。国際協力の第一線で活躍している人々や、現在行われている日本各地の国際協力のイベントなどの情報が満載。

〈 ODAを知るならここもチェック! 〉

マックスむらいが
外務省を徹底調査!



タレントのマックスむらいさんが大人の社会科見学として夜の外務省を訪れ、国際協力やODAについて学ぶ「マックスむらいvs夜の外務省に大人の社会科見学 国際協力 (ODA) を勉強せよ」がニコニコ動画 (live.nicovideo.jp/watch/lv198460642/) で公開中。

本がアジアなど開発途上国を支援する枠組み「コロンボ・プラン」に加盟したのが1954年。この間、日本は世界各地でさまざまな国際協力を実施してきましたが、その現場の様子が一一般の方々にはあまり知られてこなかったのが現状です。そこで外務省は2014年「国際協力60周年」をきっかけに、さまざまな企画を実施していきます。その一つが、日本初の外務省 presents 情報バラエティー番組

『僕らが世界にできること』。政府開発援助 (ODA) や国際協力に関する情報を多くの若い方に知ってもらうために、世界を身近に感じられる内容をふんだんに盛り込み、どこよりも国際協力を分かりやすく伝える番組を目指しました。番組内では、タレントのTEMPURAKIDZ、たかまつななさんがフィリピンとバン格拉デシュで日本の国際協力の現場を視察。スタジオで外務省の荒木要企画官が解説を加えました。10月3日19時からニコニコ生放送とTOKYOMXで同時放送され、現在YouTube (www.youtube.com/watch?v=OZ1VVA007w/) で公開中です。これを受けて、10月17日には『僕

らが世界にできること』音楽篇』が六本木のイベント施設・ニコファーレで開催され、スチャダラパー、中孝介、Yun*chi、TEMPURAKIDZ、ROOT FIVEらアーティストによるスペシャルライブ、国際協力に関するクイズを交じえたトークも行われました。城内実外務副大臣も番組冒頭で出演し、日本による国際協力の必要性、近年のODAの状況などについて語り、会場は大いに盛り上がりました。スチャダラパーのBOSEさんは、「日本人だからこそできるきめ細やかな支援を、これからもやっていければ」と語り、出演アーティストもそれぞれに、自分たちができる国際協力への思いを語りました。



「島国固有の問題には国際的な協力が不可欠」と、本会議で強調する牧野前外務大臣政務官



「気候変動と防災」分科会では、日本の強みを生かした防災協力などについて紹介

9月15日、「第3回小島嶼開発途上国 (SIDS) 国際会議」がサモアで開催されました。SIDSには、太平洋、カリブ、アフリカ地域などの38カ国の国連加盟国、複数の非国連加盟国・地域が含まれ、小島嶼国特有の課題解決に向けて、約10年に1度、国際会議を開催しています。今回は約40の国・地域の首脳級・閣僚級、約10の国際機関の代表、日本からは牧野たかお前外務大臣政務官が出席しました。近年は特に、気候変動や防災の分野での脆弱性への対応が急務とされているSIDS。潘基文国連事務総長はスピーチで、2014年が「国

「第3回小島嶼開発途上国 (SIDS) 国際会議」 小さな島国の未来に貢献

際SIDS年」であることに触れるとともに、SIDSが直面する気候変動問題に対する具体的な行動の重要性を強調しました。これを受けて、牧野前外務大臣政務官は、気候変動、防災、保健分野における日本のSIDS支援策について紹介。今後3年間で5000人の人材育成を行う旨を発表しました。また、本会議と平行して加盟国、国際機関、市民社会とのマルチステークホルダー会合が行われ、牧野前外務大臣政務官が共同議長を務めた「気候変動と防災」分科会では、国際社会と連携した取り組みの強化が重要だと確認されました。

Message from Cuba 日本とキューバをつなぐコメ



現地の人々に熱心に田作りについて指導する日本人専門家



機械の使い方も直接やって見せることで習得が早まる

キューバの人々はコメが大好き。一人当たりの平均消費量は日本人以上ですが、自給率は3割程度と低く、コメの増産が大きな課題となっています。そこでコメ作りを得意とする日本は2003年から10年以上にわたり、人づくり、制度づくりを中心に技術協力を通じた支援を続けてきました。多くの開発途上国では、稲作農家は貧しい暮らしを強いられてきました。しかしキューバでは、政府によって比較的高い買い取り価格が優遇されるため、都市部の労働者よりも恵まれた生活を送るコメ農家が多いように感じられます。日本からの技術

移転がさらに進めば、この国のコメ作りの将来は明るいのではないかと日本人専門家は考えています。深刻な物不足や厳しい政府の統制により資機材の入手が困難であるなど、プロジェクトを進める上では多くの苦労があります。しかし、キューバの人々は教育水準が高いため飲み込みが早く、技術の習得にも熱心なので、やりがいがあるといえます。他方、現場で一緒になって汗を流す日本人専門家の姿勢はキューバ側から高く評価されています。お互いに敬意を払い、歴史的な友好関係を築いてきた両国民の交流の縮図がここにあるのです。

在キューバ日本国大使館

築山 淳志 二等書記官
(現 中南米局 南米課)

現地からのメッセージは、ODAメールマガジン (www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/) でご覧いただけます。